

01 目的

お客様に選ばれ、成長し続ける会社“Good Company”であるために最も大切な原動力は社員であり、多様な社員一人ひとりの「力」の最大化やウェルビーイングの実現、企業価値の向上をめざして、社員と家族の心身の健康の保持・増進に積極的に取り組んでいる。

02 課題・目標

健康経営で解決したい経営上の課題

課題 ③ 中長期的な企業価値向上	健康経営で解決したい経営上の課題	会社が持続的成長を果たし中長期的な企業価値向上を実現するには、お客様や取引先、地域社会との良質な関係のもと、社員・組織がウェルビーイングな状態を保つ必要がある。
	健康経営の実施により期待する効果	社員が心身ともに健康な状態でいきいきと働くことで満足度や働きがいを高め、お客様や取引先、地域社会の健康増進や社会課題解決に貢献し、会社の持続的成長につなげることを期待している。

自社従業員（組織）の課題と目標

重点課題1 ⑨ 生活習慣改善(運動・睡眠・食生活等)に関する従業員の課題

課題内容	高いパフォーマンスを発揮するためには、全社員が生活習慣改善に取り組み、社員の健康を通じて組織の生産性や働きがいが向上につながる事が重要である。最終指標であるプレゼンティーズムとの関係が確認されている主観的健康観を高める健康チャレンジで、指標の底上げを目指す。																										
	目標	健康チャレンジ参加人数	主観的健康観																								
		<table border="1"> <tr><th>数値</th><th>単位</th><th>年度</th></tr> <tr><td>取組前実績値</td><td>7,106 名</td><td>2022年度</td></tr> <tr><td>現在の実績値</td><td>7,542 名</td><td>2023年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>8,000 名</td><td>2024年度</td></tr> </table>	数値	単位	年度	取組前実績値	7,106 名	2022年度	現在の実績値	7,542 名	2023年度	目標値	8,000 名	2024年度	<table border="1"> <tr><th>数値</th><th>単位</th><th>年度</th></tr> <tr><td>取組前実績値</td><td>3.48</td><td>2022年度</td></tr> <tr><td>現在の実績値</td><td>3.47</td><td>2023年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>3.50</td><td>2024年度</td></tr> </table>	数値	単位	年度	取組前実績値	3.48	2022年度	現在の実績値	3.47	2023年度	目標値	3.50	2024年度
数値	単位	年度																									
取組前実績値	7,106 名	2022年度																									
現在の実績値	7,542 名	2023年度																									
目標値	8,000 名	2024年度																									
数値	単位	年度																									
取組前実績値	3.48	2022年度																									
現在の実績値	3.47	2023年度																									
目標値	3.50	2024年度																									
		<table border="1"> <tr><th>数値</th><th>単位</th><th>年度</th></tr> <tr><td>取組前実績値</td><td>61.6</td><td>2022年度</td></tr> <tr><td>現在の実績値</td><td>62.2</td><td>2023年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>63.2</td><td>2024年度</td></tr> </table>	数値	単位	年度	取組前実績値	61.6	2022年度	現在の実績値	62.2	2023年度	目標値	63.2	2024年度													
数値	単位	年度																									
取組前実績値	61.6	2022年度																									
現在の実績値	62.2	2023年度																									
目標値	63.2	2024年度																									

重点課題2 ⑩ 女性特有の健康関連課題等の健康保持・増進に関する課題

課題内容	女性特有の事由による欠勤率、女性のプレゼンティーズムは改善しているが、ワーク・エンゲイジメントは下降傾向である。女性の健康施策取組数が多いほどワーク・エンゲイジメントに影響することを確認したため、女性の健康支援策をより充実させ、参加を促進することで改善を図る。																										
	目標	女性のワーク・エンゲイジメント	子宮がん検診受診率																								
		<table border="1"> <tr><th>数値</th><th>単位</th><th>年度</th></tr> <tr><td>取組前実績値</td><td>2.51</td><td>2022年度</td></tr> <tr><td>現在の実績値</td><td>2.51</td><td>2023年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>2.55</td><td>2026年度</td></tr> </table>	数値	単位	年度	取組前実績値	2.51	2022年度	現在の実績値	2.51	2023年度	目標値	2.55	2026年度	<table border="1"> <tr><th>数値</th><th>単位</th><th>年度</th></tr> <tr><td>取組前実績値</td><td>61.7 %</td><td>2022年度</td></tr> <tr><td>現在の実績値</td><td>62.2 %</td><td>2023年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>64.0 %</td><td>2024年度</td></tr> </table>	数値	単位	年度	取組前実績値	61.7 %	2022年度	現在の実績値	62.2 %	2023年度	目標値	64.0 %	2024年度
数値	単位	年度																									
取組前実績値	2.51	2022年度																									
現在の実績値	2.51	2023年度																									
目標値	2.55	2026年度																									
数値	単位	年度																									
取組前実績値	61.7 %	2022年度																									
現在の実績値	62.2 %	2023年度																									
目標値	64.0 %	2024年度																									
			<table border="1"> <tr><th>数値</th><th>単位</th><th>年度</th></tr> <tr><td>取組前実績値</td><td>77.0 %</td><td>2022年度</td></tr> <tr><td>現在の実績値</td><td>76.7 %</td><td>2023年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>79.0 %</td><td>2024年度</td></tr> </table>	数値	単位	年度	取組前実績値	77.0 %	2022年度	現在の実績値	76.7 %	2023年度	目標値	79.0 %	2024年度												
数値	単位	年度																									
取組前実績値	77.0 %	2022年度																									
現在の実績値	76.7 %	2023年度																									
目標値	79.0 %	2024年度																									

04 健康経営の成果

経営上の課題に対する健康経営の成果

2019年度から2023年度にかけ、社員のプレゼンティーズムが4年連続で改善している(2019年度60.0、2020年度:61.2、2021年度:61.4、2022年度:61.6、2023年度62.2)。また、健康経営の取り組みで培ったノウハウを活かしながら健康経営に取り組む企業を支援し、社会全体への健康経営の浸透に貢献している(2023年度の支援企業数:約2,200社)。

03 施策・実績

健康経営の取り組み

施策内容(重点課題1)

より良い生活習慣が定着し、主観的健康観が向上することをめざした「健康チャレンジ」を全社員対象に実施し、生活習慣や生産性への効果を検証した。

具体的な実践内容1

分類	外部サービス
名称	健康チャレンジキャンペーン
提供元社名	東京海上日動メディカルサービス株式会社
内容	全社員を対象に、健康増進策として、個人で取り組むMyチャレンジと組織で取り組むOurチャレンジを展開し、記録用WEBサイトを設けている。
導入時期	1990年
選択理由	●価格 ●効果 ●実績
評価(定量・定性)	●2023年度の参加者7,891名(参加率42.5%)、事後アンケートの満足度97.5%。 ●施策参加翌年の生活習慣の改善状況を検証した結果、施策参加群は不参加群と比べて運動リスクの良好維持率と飲酒リスクの改善率で特に高い効果を示した。 ●Ourチャレンジ参加により「職場のコミュニケーション活性化に役立った」「組織の一体感が高まった」との声があった。

具体的な実践内容2

分類	外部サービス
名称	ストレスチェック(ナビチェック)
提供元社名	東京海上日動メディカルサービス株式会社
内容	職業性ストレス簡易調査票に追加設問を設定した内容で、WEBにてストレスチェックを実施。集団分析(性別、部門等の属性別)の報告書作成。
導入時期	2010年度
選択理由	●価格 ●機能・性能 ●実績
評価(定量・定性)	●2023年度ストレスチェック実施率98.8% ●新職業性ストレス簡易調査票の項目に加えて、戦略マップの最終KPI(生産性指標)とその下位指標(心身の健康・就労状況)について追加設問で取得し、健康施策の効果の経年での分析・評価に活用することで、新たな施策の検討へとつなげている。

具体的な実践内容3

分類	外部サービス
名称	健康経営支援サービス
提供元社名	東京海上ディーアール株式会社
内容	健康チャレンジ参加者で、生活習慣が改善・定着した群(A群)とその他(B群)の主観的健康観・プレゼンティーズムの翌年の差を検証した。
導入時期	2015年度
選択理由	●価格 ●機能・性能 ●実績
評価(定量・定性)	●戦略マップの下位指標を具体化した項目と生産性指標で相関性の高い項目を確認し、重回帰分析で下位指標の生産性指標への影響度を定量化したところ、主観的健康観がプレゼンティーズムに特に高い影響があった(回帰係数+0.12)。 ●A群はB群より主観的健康観(+0.3)、プレゼンティーズム(+3.8)ともに高い結果となった。

取り組みにおける課題や困っていること

実施している施策の課題	全社員対象の健康チャレンジは、事後アンケート満足度が97.5%と高く、運動習慣や主観的健康観、プレゼンティーズムが改善する傾向も確認しているが、2023年度参加率は42.5%であり、より参加意欲を高める工夫が必要である。
今後取り組みたい施策の課題	プレゼンティーズム、ワーク・エンゲイジメント、組織のいきいき度と、ウェルビーイングスコアの関係性を確認しているが、健康施策が社員のウェルビーイングに寄与しているか検証しきれていないことが課題である。

施策内容(重点課題2)

女性の健康支援策を「ミモザ健康委員会」と総称し周知を図り、年間を通じて各種施策を継続的に展開。新規施策として、ヨガプログラムを追加している。

具体的な実践内容1

分類	自社組織
名称	健康リテラシー向上のためのe-learning
内容	女性特有のがん、月経痛・月経前症候群、更年期障害等をテーマに、女性社員へe-learningと実態調査を行い、健康リテラシー向上と現状把握を図った。
導入時期	2018年度
評価(定量・定性)	●受講者数5,483名(女性社員の60.0%) ●がん検診受診率はコロナ禍に低下したが、改善傾向にある。 ●実態調査を基に、より快適な職場づくりについての提案を全社員へ発信したところ、「職場で話題にした」、「女性の健康への理解が深まった」との声があった。

具体的な実践内容2

分類	外部サービス
名称	Yogaチャレ40+(フォーティープラス)
提供元社名	ヨガ講師 小林麻紀子
内容	運動習慣がない40代以降の女性をメインに、日常に取り入れやすく効果が実感できるヨガのオンラインレッスンを水曜夜と土曜朝に提供する。
導入時期	2024年度
選択理由	●価格 ●使いやすさ ●実績
評価(定量・定性)	●2024年度前期アンケート回答者114名の満足度100%、「運動習慣が身についた」または「身につけよう」と回答した者94.0% ●「体がすっきりした」、「熟睡できた」、「隙間時間に活用できる」、「仲間がいるから続けられた」との声があった。

具体的な実践内容3

分類	外部サービス
名称	健康経営支援サービス
提供元社名	東京海上ディーアール株式会社
内容	女性の健康に関する各種施策について、2023年度の取組状況を分析し、健康関連の最終的な目標指標との関係を検証した。
導入時期	2015年度
選択理由	●価格 ●機能・性能 ●実績
評価(定量・定性)	●女性の健康支援策参加・活用者は全社員の44.9%(女性に限定すると62.2%)、取り組みを「評価する」と回答した者65.9% ●参加・活用数が多いほど、ワーク・エンゲイジメントが高い結果となった(1~2個:2.63、3~4個:2.73、5~6個:2.93)。

データ活用事例

事例名	健康管理システムHealth Data Bankを活用した情報の利活用
内容	健診結果を直接健診機関から受領してシステムに登録するサービスにより、全国の社員のデータを一元管理でき、集計・分析の効率化や産業医判定のペーパレス化、重症化予防等の施策に活用している。また社員自身も経年データを閲覧し、健康管理に役立てている。
利用データ	健康診断、問診 利用者(ユースケース類型) 産業保健スタッフ(ユースケース1)